選択的評価事項に係る評価

自　己　評　価　書

平成22年6月

静岡文化芸術大学

目　　次

Ⅰ　大学の現況及び特徴　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

Ⅱ　目的　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

Ⅲ　選択的評価事項Ｂ　正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況　・・・3

Ⅰ　大学の現況及び特徴

１　現況

(1)大学名　静岡文化芸術大学

(2)所在地　静岡県浜松市中区中央２丁目 1-1

(3)学部等の構成

学部：文化政策学部（国際文化学科、文化政策学科、芸術文化学科）
デザイン学部（生産造形学科、メディア造形学科、空間造形学科）

研究科：文化政策研究科、デザイン研究科

附置研究所：なし

関連施設：図書館・情報センター、文化・芸術研究センター

(4)学生数及び教員数（平成 22 年 5 月 1 日）

学生数：文化政策学部 965 名（国際文化学科 467 名、文化政策学科 248 名、芸術文化学科 250 名）
デザイン学部 465 名（生産造形学科 183 名、メディア造形学科 141 名、空間造形学科 141 名）
研究科 47 名（文化政策研究科 19 名、デザイン研究科 28 名）

教員数：80 名

２　特徴

本学は静岡県と浜松市、地元産業界が協力して設置・運営する「公設民営方式」の大学として、平成12年4月に誕生した。開学当初は、2学部（6学科）で発足したが、幅広い視野と高度な専門性を持った「高度専門職業人」を養成するため、平成16年4月には大学院（修士課程2研究科）を設置した。

2010年3月には第7期生を社会に送り出し、大学院からも修士課程を修めた第5期生が巣立っていくなど、着実な実績をあげている。

また、本学は、地域文化の一翼を担う「拠点施設」及び「開かれた大学」として、学生や教員がさまざまな地域活動に参加し、地域と交流を深めるなど、積極的に地域に向けた文化、芸術の発信と交流に取り組んでいる。

（学びの特色）

(1)２学部の交流

2 学部共通の科目が多く設けられている。また、ギャラリーや工房の開放などを通じて文化とデザインの有機的な融合を目指している。

(2)少人数教育

語学や情報処理など、多くの科目で少人数のクラス編成による、教員と学生の対話「コミュニケーション」を重視した教育を行っている。

(3)導入教育

1 年前期に「大学の理念」「大学で学ぶことの意義」などを理解し、大学生として必要となる文書作成や文献検索などの基礎的能力を養う。

2 年後期に事業の構想から計画・立案・提案までの事業プロジェクトを体験的に学習し、社会人として必要な基礎的構想作成能力やプレゼンテーション能力を養う。

(4)社会から求められる実践的な語学・情報処理

情報化、国際化社会で生き抜くために、コンピュータやＬＬを使用した、実践的な語学・情報処理教育を行っている。また「海外語学研修」など、貴重な経験の場を提供している。

(5)野学（フィールドワーク）の重視

教育の場を学内だけにとどめず、企業や公共機関などにおける実習への取り組みも重視している。

(6)柔軟な学習領域の選択

他学部・他学科の授業科目でも履修することが可能であり、10 単位を上限に卒業要件単位に導入できる。なお、静岡大学情報学部の科目の一部を履修できる単位交換も実施している。

(7)免許・資格の取得支援

職業免許・資格の取得につながる科目の設定や、就職支援講座など様々な資格取得への支援を行い、学生の将来をしっかりとサポートしている。

(8)地域との連携

地域イベントへの参画、NPO や行政機関との連携や共同活動などを通じて、地域社会の発展や活性化に積極的に貢献している。

Ⅱ選択的評価事項Ｂ　「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」に係る目的

大学の設置理念にある「開かれた大学」を目指し、「地域」「国際」「世代」など、あらゆる対象に向けて交流や連携を図る。具体的には授業科目を正規の学生と一緒に聴講できる社会人聴講生制度を定めるとともに本学の専門分野を活かした講座を市民対象に公開講座として開講する。また図書館施設を県内の成人が利用できる制度とする。小･中・高校生には大学の施設見学、出張講義、授業参加を実施する。

教育サービスの目標・計画

１　地域社会への貢献のための体制を整備する。

(1-1)　地域交流、産学官連携を推進するため、文化・芸術の交流拠点として文化・芸術研究センターを設置する。

(1-2)　開かれた大学を実現するため、積極的に施設の開放等をしている。

２　大学が有する知や研究成果を活用し､教育・文化の向上、地域社会の活性化に貢献する。

(2-1)　地域文化や芸術の振興を支援するため､公開講座､図書館の開放、体験学習、創作活動を充実する。

(2-2)　地域の社会人に対し、正規の学生と一緒に授業科目を聴講できる社会人聴講生の制度を設ける。(2-3)　初等、中等、高等教育機関に対する出前授業、研究生の受け入れなど教育サービスを提供する。

(2-4)　地元自治体と連携し、研究・政策提言を行い、市町村行政への支援を行う。

(2-5)　地元企業からの講師受け入れ、職員の大学院への受け入れなど企業との交流を推進する。

３　高等学校の資質向上、発展に向けて、連携強化を図る。

(3-1)　高等学校生徒への教育の質の向上を図るため、出前授業のほか、大学の授業に高校生が参加をする。

４　国際交流を推進するための体制を整備するとともに、外国の大学との交流を深める。

(4-1)　外国の大学との交流を推進するため、国際交流委員会を設置する。

(4-2)　学生の海外留学、外国人留学生の受入を推進するため、国際交流協定の締結を促進する。

５　他大学との連携による教育サービスの充実を図る。

(5-1)　単位互換協定による本学及び他大学の学生に対する教育サービスの充実を図る。

(5-2)　大学間の連携により、共同授業、共同研究等を行い、本学及び他大学の学生に対する教育サービスの充実を図る。

２　選択的評価事項Ｂ　「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」の自己評価

（１）観点ごとの分析

観点Ｂ－１－①：　大学の教育サービスの目的に照らして，目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また，これらの目的と計画が周知されているか。

【観点に係る状況】

＜社会人聴講、高校との連携、研究生、委託生、単位互換＞

3 月に開催される理事会で翌年度事業計画案を審議し事業計画（理事会議題）を定めている。これは大学の設置理念にある「開かれた大学として社会の発展に貢献する大学」を目指し、「地域」（社会人聴講生、委託生、科目等履修生の受け入れ、他大学との単位互換）、「国際」（韓国・湖西大学校との交換留学、外国人研究生受け入れ）、「世代」（社会人聴講生、高校生への講義）など、あらゆる対象に向けて交流や連携を図るという基本方針（学則１条）を具体化するものである（別添資料 B-1-1-2）。その取り扱いは学則及び規程で定められている。

この目的と計画は、大学案内（別添資料 B-1-1-1）、大学ホームページ（http://www.suac.ac.jp/about/community/region/）を中心に周知している。（別添資料 B-1-1-3、B-1-1-4）

また、事業内容によって県民だより・ラジオ（社会人聴講生）などのマスメディアや広報チラシ、ポスターも活用している。

＜公開講座・公開工房等＞

大学の設置理念にある「開かれた大学」を目指し、教員の専門的知識、技能やネットワークを活用し、地域住民の生涯学習や地域文化の振興のため、文化・芸術研究センターの主催により、「セミナー」や「公開講座」、「公開工房」、学生が企画・運営するイベントを実施している。平成 20 年度には、公開講座（特別公開講座を含む）及び公開工房の延べ 24 講座に約 1,100 人、延べ 4 回のセミナー及びシンポジウムに約 1,600 人、学生が企画・運営した「薪能」に約 1,100 人の参加があった。これらの講座やイベントの開催はチラシやホームページをはじめ、パブリシティを積極的に活用して広報している。（別添資料 B-1-1-5）

また、ものづくり体験ができる「自由創造工房」をはじめ、大学施設を積極的に地域に開放している。特に、ユニバーサルデザインの設計思想や屋上緑化などが特徴のキャンパスには、多くの市民や学生、児童が見学に訪れ、大学としても視察等を積極的に受け入れている。

＜図書館の学外者利用＞

「社会に貢献する大学」という本学設置理念に基づき、「開かれた大学」を標榜する本学の図書館・情報センターは、開学時より資料の閲覧を開始し、その翌年秋より貸出サービスをおこなっている。「図書館・情報センター学外者利用細則」にあるように、「本学の教育を広く地域社会に開放し、地域の教育文化の向上及び本学と地域との広範な交流、連携に資することを目的として」、学外者の利用に供している。当館は文化、芸術、ものづくり、街づくりに関する蔵書を特色として有しており、公共図書館では提供し得ない高度な学術情報を地域社会に公開し、生涯学習活動等を支援している。（別添資料 B-1-1-7、B-1-1-8、B-1-1-9）

学外登録者の年代は 10 代の専門学校生から 70 歳代の方までと幅広く、うち約 81％は浜松市民であるが、周辺の市や町からの登録者も多い。平成 20 年度の学外登録者は 688 人（うち女性 338 人）、延 5,163 人が入館した。館

内の視聴覚資料を視聴に来館する学外者も多い。

別添資料B-1-1-1	大学案内（国際交流、社会に開かれた大学p65～68）
別添資料B-1-1-2	施策体系図（再掲11-3-3-2）
別添資料B-1-1-3	大学ホームページ（社会人聴講生募集） (URL　http://www.suac.ac.jp/about/community/learning/　)
別添資料B-1-1-4	大学ホームページ（高校生対象デザインワークショップ） (URL　http://www.suac.ac.jp/about/community/workshop/　)
別添資料B-1-1-5	大学ホームページ（公開講座・公開工房） (URL　http://www.suac.ac.jp/news/eventend/　)
別添資料B-1-1-6	文芸研究セミナー　チラシ
別添資料B-1-1-7	大学ホームページ（図書館・情報センター） (URL　http://www.suac.ac.jp/library/　)
別添資料B-1-1-8	学生便覧（図書館・情報センター利用案内p56～58）
別添資料B-1-1-9	図書館・情報センター学外者利用細則

【分析結果とその根拠理由】

＜社会人聴講、高校との連携、研究生、委託生、単位互換＞

大学の設置目的（認可申請書）に即し基本理念を定め（学則１条）、事業の体系を施策体系図に位置づけ、「開かれた大学として社会の発展に貢献する大学」を目指し、「地域」、「国際」、「世代」といったあらゆる対象に向けた計画の策定と方針が定められている。研究生、委託生、科目等履修生、社会人聴講生、特別聴講学生（海外の大学生の受け入れ、他大学学生の科目履修）の受け入れにより、この方針の実現が図られ、様々な教育サービスを提供している。また、この内容が周知されるよう大学案内、リーフレット、チラシ、Web、県民だより、ラジオ、新聞などを活用して、機会ある毎に広報しているので、計画と事業の十分な周知が図られている。

＜公開講座・公開工房等＞

公開講座、公開工房等の開催情報についてはチラシやホームページをはじめ、パブリシティを積極的に活用し、周知を図っている。近年、受講者の圏域は県東部地域から愛知県東部地域にまで広がっていることから、講座等の開催周知は図られていると判断する。

＜図書館の学外者利用＞

学外登録者のうち、芸術関係資料の利用を希望する割合は、平成20年度には約38%に達し、年々微増している。学外者への貸出においては、平成20年度は2,734冊と過去最多の貸出冊数となっている。貸出の内訳は芸術関係約20%、建築を含む工学関係が18%であり、本学の蔵書の特色とよく合致している。

開学以来10年を経て、浜松市の中心部という本学立地の好条件に恵まれ、地域の住民に徐々に浸透し、活用されているといえる。

観点Ｂ－１－②：　計画に基づいた活動が適切に実施されているか。

【観点に係る状況】

＜社会人聴講＞

社会人聴講の制度になじまない演習科目や実習科目などを除く授業科目を正規の学生と一緒に聴講することができるように、前期・後期の授業科目を対象に募集（20 年度前期 94 科目、後期 98 科目）を行っている。ただし、1 科目 5 名程度を社会人聴講生の定員としている。多数希望がある場合には担当教員の判断で選考を行っている。

募集要項は、静岡県県民だより（県下全世帯に配付）に登載するとともに、過去に聴講をした聴講生に送付するなどしている。（別添資料 B-1-2-1）

＜高校との連携＞

高校などの要請を受けて、本学で行う授業を聴講させるほか、大学での模擬授業を大学又は高校で行うなど（高大連携事業実績）、大学の教育内容を幅広く伝え教員や生徒との交流や連携を図っている。また、本学で実施する場合には、必要に応じて大学説明や施設案内などと組み合わせ実施している。

毎年夏季休業中に 2 日間にわたり高校生対象のデザインワークショップを開催し、本学教員の指導のもとで、持続可能な社会づくりをテーマに、基本的な目標の設定から、デザイン案のまとめ、プレゼンテーションまでを体験できるものとなっており、参加者から好評を得ている。（別添資料 B-1-1-4）

＜単位互換（西部 8 大学共同授業、韓国・湖西大学校との交換留学、静岡大学との単位互換授業＞

西部 8 大学で実施している共同授業は、100 人以内の学生を目途に 10 月から 12 月にかけて 8 回の講義を行い共同で単位認定を行っている。20 年度は学生 86 人、市民 12 人の 98 人に講義を実施した。

韓国の湖西大学との国際交流協定に基づき交換留学を実施している。一度の留学生数は 5 名を限度としており、毎年継続的に留学生を受け入れている。昨年の 10 月から今年の 7 月までの期間で 3 人の留学生を受け入れた。

（別添資料 B-1-2-2、B-1-2-3、B-1-2-4）

＜研究生、委託生＞

その他の正規課程以外の学生への教育サービス（研究生、委託生他）は地域などの必要なニーズにより受け入れている（表 B-1-3-a）。学部研究生は大学院を目指す外国の大学卒業者が日本語を学びながら籍を置くなどの例がある。また、委託生は市などの行政機関が職員の研究テーマを学ばせるために受託している例などである。

＜公開講座・公開工房等＞

公開講座に関しては、公開講座専門部会において、本学の特色や知的財産の地域貢献を前提に、受講者アンケートも踏まえ、コンセプトやテーマを決定している。毎年の講座のコンセプトを明確にすることにより、分かり易い講座として市民に受け入れられてきている。受講者数は、開催当初は各回 20 名程度であったが、近年の受講者数は、各回 50～60 人程度に向上。現在、前期は『文化とデザインの時代』、後期は『多文化社会に生きる』をシリーズ化して展開している。（別添資料 B-1-2-5、B-1-2-6）

公開工房に関しては、本学の自由創造工房を地域への開放施設として、年 2 回（夏季・春季）、本学の教員等の指導のもと実施している。毎年、8 講座程度を実施し、受講者数は 90 名前後。もの作りの楽しさから固定ファンも多く、受講者は県東部地域～愛知県東部地域の広範囲に広がっている。（別添資料 B-1-2-8、別添資料 B-1-2-9）

＜図書館の学外者利用＞

本学開学以来、図書館の学外者への開放を行い、開学翌年の秋から 1 人 5 冊以内、2 週間以内の範囲で貸出を開始した。平成 20 年度は 2,734 冊と過去最多の貸出冊数を示した。(平成 21 年度は 2,336 冊) この貸出の数値は、「平成 19 年度学術情報基盤実態調査結果報告」によれば、国立大学平均の 3.9 倍、公立大学平均の 2 倍、私立大学平均の約 3 倍と非常に高い。学外者の利用は地域に徐々に定着・浸透し、中でも芸術や建築資料に対する関心が高い。特に建築資料については、県内の大学に建築学科が無く、本学が唯一の資料提供館である。

別添資料 B-1-2-1　社会人聴講生規程
別添資料 B-1-2-2　国際交流協定書
別添資料 B-1-2-3　大学案内（国際交流 p65～66）
別添資料 B-1-2-4　西部 8 大学共同授業募集案内
別添資料 B-1-2-5　公開講座実施計画
別添資料 B-1-2-6　公開講座実施推移
別添資料 B-1-2-7　地域交流委員会規程
別添資料 B-1-2-8　公開講座運営部会設置細則
別添資料 B-1-2-9　公開工房実施推移
別添資料 B-1-2-10　自由創造工房利用細則

【分析結果とその根拠理由】

＜社会人聴講、高校との連携、研究生、委託生、単位互換＞

社会人聴講生の受け入れは、できる限り多くの分野の講義が聴講でき、学生の受講に妨げとならないよう配慮し、全学教務委員会で審議を行い、授業担当教員の理解を得て、適切に実施している。

その他の正規課程の学生以外への教育サービスについても大学の設立目的に即した取り組みを制度化し、国際交流委員会や教授会又は大学評議会の審議を経て、実施している。

＜公開講座・公開工房等＞

公開講座、公開工房等については、チラシやホームページをはじめ、パブリシティを積極的に活用し、周知を図っている。開催当初に比較して受講者も順調に増加し、固定的な受講者もいることから、計画に基づいた活動が適切に実施されていると判断する。

＜図書館の学外者利用＞

本学蔵書は、開学以来、年間平均受入冊数が約 1 万冊と順調に増加し、現在、20 万冊を目前としている。蔵書構成は社会科学が最も多く 21%、次いで総記 16%、文学 14%、芸術 12%、歴史 10%、工学 8%、哲学・言語が各 6%、自然科学 4%、産業 3%の順である。芸術分野は 21,500 冊程度、建築は約 5,000 冊所蔵している。とはいえ、私立大学図書館の平均所蔵図書数 30 万冊には程遠いというのが現状である。特に、静岡県西部には文化政策・デザイン系の大学が本学以外には無く、今後の資料の充実が期待される。

観点Ｂ－１－③：　活動の結果及び成果として，活動への参加者が十分に確保されているか。また，活動の実

施担当者やサービス享受者等の満足度等から判断して，活動の成果が上がっているか。

【観点に係る状況】

＜社会人聴講、高校との連携、研究生、委託生、単位互換＞（教務室長）

社会人聴講は前期・後期の授業科目を対象に募集（20 年度前期 94 科目、後期 98 科目）し、20 年度は合計 217 人の調整が参加した。

西部 8 大学で実施している共同授業は、100 人以内の学生を目途に 10 月から 12 月にかけて 8 回の講義を行い共同で単位認定をしている。20 年度は学生 86 人、市民 12 人の 98 人に講義を実施した。

韓国の湖西大学との国際交流協定に基づき交換留学を実施している。一度の留学生数は 5 名を限度としており、毎年継続的に留学生を受け入れている。昨年の 10 月から今年の 7 月までの期間で 3 人の留学生を受け入れた。

その他の教育サービスについては地域等のニーズに応じた対応を行っている。

《表 B-1-3-a　受入れ実績（人）》

項目／年度	社会人聴講生	科目等履修生	共同授業	留学生	他大学単位互換	研究生	委託生
平成 17	226	1	141	—	10	1	1
平成 18	234	1	99	4	17	0	1
平成 19	232	2	82	3	3	2	1
平成 20	217	0	98	3	2	0	1

＜公開講座・公開工房等＞

公開講座については、開催当初に比較して受講者は増加しており、毎回の受講者アンケートにおいても高い評価を得ている。（表 B-1-3-b、別添資料 B-1-4-3）

公開工房については、定員以上の応募がある講座が多く、固定的な受講希望者も多く見受けられ、アンケート調査の回答からも高い評価を得ている。（表 B-1-3-c、別添資料 B-1-4-4）

≪表 B-1-3-b　平成 21 年度公開講座受講者の意見の例≫

・不明な点もあったが、勉強のポイントを教えていただき有意義であった。
・内容も難しくなく、ちょうどよかった。
・参加者の質問が参考になった。考えの多様さが理解できた。
・知りたかったことを知ることができた。良かった。
・先生の考え方がよくわかった。体系的によくまとまっていた。新しい考え方は大切だと思った。
・貴大学のめざしているものを公開講座を通して市民にアピールしていってほしいと思う。
・内容が分類、分析されていて、極めて理解しやすかった。
・画像、映像は、具体的な資料として見せてほしかった。
・もっとマネジメントの詳しい話を聞きたかった。
・資料の字がこまかすぎる。　　など

≪表 B-1-3-c 平成 21 年度夏公開工房参加者の意見の例≫

・楽しい一日が過ごせました。作品をつくる楽しさがやみつきになりそうです。
・親切な対応で感謝しております。
・至れり尽くせりで、大変ありがたい。
・楽しかったのでまた参加したい。
・とても親切に指導していただき楽しく出来ました。またぜひ参加したい。
・休憩時間が少なく少し疲れましたが、デッサンの心構えを教えていただき、今後絵を描く時の参考になりました。楽しんで参加できました。
・親切でよかった。明るい雰囲気の工房が素晴らしい。
・ＨＰ、メールで申し込みができないか。
・木工・林業の浜松であるから、木工作りの工房を開いてほしい。　など

＜図書館の学外者利用＞

本学開学以来、図書館の学外者への開放は行っており、地域に徐々に定着・浸透しているといえる。特に芸術や建築資料に対する関心が高く、本学の所蔵資料と合致し有効に利用されている。登録者のうち、登録を更新する者が多く、また、毎日来館する学外者もおり、ある程度の満足は得られているといえる。

《表 B-1-3-ｄ　図書館、メディアステーション利用状況》

年度	入館者(人)					貸出冊数(冊)						メディアステーション利用状況(人)
	学内		学外者	合計	1日平均	学内		学外者	合計	1日平均	学生1人平均	
	学生	職員数				学生	教職員					
平成 19	102,376	6,269	4,240	112,885	400	24,559	4,910	2,194	31,663	118	16	52,662
平成 20	108,620	6,579	5,163	120,362	417	24,001	4,128	2,734	30,863	124	16	54,245
平成 21	102,747	6,488	6,434	115,669	409	20,471	4,058	2,336	26,865	95	14	50,957

【分析結果とその根拠理由】

＜社会人聴講、高校との連携、研究生、委託生、単位互換＞

社会人聴講については、公開可能な約 100 科目中、約 50 科目と十分な選択の余地と多数分野への聴講という結果を得られており、満足のゆく参加状況であると思われる。

また、満足度等についてもアンケート結果から社会人聴講生の評価は 4.7 と学生の 4.1 から 4.3 の評価に比べ非常に高く、聴講生の意欲の高さとそれに応えようとする教員の講義内容の質の高さが想像される。

その他の事業への参加実績についても、おおむね計画に沿った状況である。

＜公開講座・公開工房等＞

公開講座、公開工房については、毎年一定の受講者数が確保されており、受講者のアンケート結果からも講座に対する評価は良好であり、活動の成果は上がっていると判断する。

＜図書館の学外者利用＞

図書館の学外登録者については、学生数 1,513 人に対し学外登録者数 688 人と利用者の 3 割ほどを占め、毎年

延 5 千人以上の入館者があり、2,700 冊近くを貸出す、全国的に見ても地域に非常によく利用されている大学図書館といえる。

観点Ｂ－１－④：　改善のための取組が行われているか。

【観点に係る状況】

＜社会人聴講、高校との連携、研究生、委託生、単位互換＞

関係委員会でそれぞれの教育サービスの取組に対して事前及び事後のチェックを行い、次回に向けて、改善を図ってきた。社会人聴講生については、授業評価アンケートを活用し引き続きの授業改善や新規科目の開講にも取り組んでいる。参加の少ない事業については改善のための問題点の把握を行い、参加者数を確保するための説明会の実施などにより周知の強化を図っている。

計画－実行－評価－改善というような明確なシステムを持っていなかったので、自己点検・評価委員会で PDCA サイクルに基づく業務の執行を進めていくよう決定した。(別添資料 B-1-4-1、B-1-4-2)

＜公開講座・公開工房等＞

公開講座、公開工房等では、受講者に必ずアンケート調査を実施しており、講座に対する評価や受講者ニーズを常に把握するよう努めている。(別添資料 B-1-4-3、B-1-4-4)

＜図書館の学外者利用＞

静岡県図書館協会、東海地区図書館協議会などに加盟し、近隣大学図書館および公共図書館との情報交換によって大学図書館として地域貢献できる分野の検討を行っている。

別添資料 B-1-4-1　PDCA に基づく業務の執行（再掲 11-3-3-a）
別添資料 B-1-4-2　授業評価アンケート結果（再掲 9-1-2-2）
別添資料 B-1-4-3　公開講座アンケート結果
別添資料 B-1-4-4　公開工房アンケート結果

【分析結果とその根拠理由】

＜社会人聴講＞

関係委員会でそれぞれの教育サービスの取組に対して事前及び事後のチェックを行い、次回に向けて、改善を図ってきたが、業務の改善にとって不十分な体制であった。従って自己点検・評価委員会において検討を進め、計画－実行－評価－改善の PDCA サイクルの導入を図り、改善の取り組みに着手した（静岡文化芸術大学運営の考え方)。

＜公開講座・公開工房等＞

公開講座、公開工房等の実施にあたっては、前回までのアンケート調査を踏まえて、次期講座のテーマや運営方法を検討しており、常に受講者の期待やニーズに応えられるよう改善を図っている。

＜図書館の学外者利用＞

図書館の学外登録者については、学生数 1,513 人に対し学外登録者数 688 人と利用者の 3 割ほどを占め、毎年 5 千人以上の入館者があり、2,700 冊近くを貸出す、全国的に見ても地域に非常によく利用されている大学図書館といえる。

（２）目的の達成状況の判断

＜社会人聴講、高校との連携、研究生、委託生、単位互換＞（教務室長）

社会人聴講、高校との連携、研究生、委託生、単位互換については、目標に沿った参加者の十分な確保、授業評価アンケートによる参加者の高い満足度から、「目的の達成状況は良好である」と判断する。

＜公開講座・公開工房等＞

公開講座、公開工房等については、受講者のアンケート結果から高い評価を得ており、「目的の達成状況は良好である」と判断する。

＜図書館の学外者利用＞

図書館の学外者利用については、登録を更新する者が多く、本学の蔵書の特性に沿った利用がされており、目的達成状況は良好といえる。

（３）優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

＜社会人聴講、高校との連携、研究生、委託生、単位互換＞

地域に開かれた大学を目指し、通常の授業を社会人に聴講させているが、継続的に年間 100 人以上の聴講生を数えており、特に目的に対する達成度が高く、その成果も大きい。

＜公開講座・公開工房等＞

公開講座、公開工房等は、特色ある大学施設や教員の能力を生かした地域貢献であり、受講者のアンケート結果から判断して市民の高い評価を得ている。

＜図書館の学外者利用＞

図書館の学外者利用は、当館の文化、芸術、ものづくり、街づくりに関する蔵書や「場」としての図書館に魅力を感じ、ほとんど毎日来館する熱心な利用者もいる。この生涯学習の時代、高齢化、また、高学歴化を反映し利用は徐々にではあるが、確実に伸びていくものと思われる。

【改善を要する点】

＜社会人聴講、高校との連携、研究生、委託生、単位互換＞

特になし

＜公開講座・公開工房等＞

公開講座、公開工房等については、受講者ニーズや地域の期待に応え、地域への貢献ができるよう、本学の特徴的な施設や教員の能力を広く発信することを通して、引き続き良質かつ高度な教育サービスの提供に取り組ん

でいく必要がある。

＜図書館の学外者利用＞

公共図書館との棲み分け等を十分考慮し、少なくとも文化政策・デザイン系蔵書においては県西部の公共図書館をバックアップできるような信頼に足る充実した資料を持ち、サービスしていける体制を整えていく必要がある。

（４）選択的評価事項Ｂの自己評価の概要

＜社会人聴講、高校との連携、研究生、委託生、単位互換＞

大学の設置理念にある「開かれた大学」を目指し、「地域」「国際」「世代」など、あらゆる対象に向けて交流や連携を図っている。具体的には授業科目を正規の学生と一緒に聴講できる社会人聴講生制度を定めるとともに本学の専門分野を活かした講座を市民対象に公開講座として開講している。また図書館施設を県内の成人が利用できる制度としている。小･中・高校生には大学の施設見学、出張講義、授業参加を実施している。

これらを、学校案内等の紙媒体を機会ある毎に配付し、Web サイトでの広報も行っている。

社会人聴講の制度になじまない演習科目や実習科目などを除く授業科目を正規の学生と一緒に聴講することができるように、前期・後期の授業科目を対象に募集を行っている。ただし、1 科目 5 名程度を定員としている。多数希望がある場合には担当教員の判断で選考を行っている。

募集要項は、静岡県県民だより（県下全世帯に配付）に登載するとともに、過去に聴講をした聴講生に送付するなどしている。

参加状況と参加者の評価が示されている社会人聴講については、毎回 100 人を超える参加者となっており、その参加者の授業に対する評価も受講学生に対すると同様に授業評価アンケートを実施し、アンケート結果やそれについての担当教員コメントをともに公開している。その他の教育サービスについては要望に基づいた取組が多く、参加者は問題なく、また、満足度については十分に把握をしてその後のケースに望んでいる。

関係委員会でそれぞれの教育サービスの取組に対して事前及び事後のチェックを行い、次回に向けて、改善を図っている。

＜公開講座・公開工房等＞

「開かれた大学」を目指す本学が実施する良質で高度な教育サービスの提供には、市民からの期待は大きい。特色ある施設や教員の能力を活用した公開講座、公開工房等は、各種の広報媒体により広く周知しており、その内容は受講者からも高い評価を得ている。

＜図書館の学外者利用＞

文化・芸術への関心が高まる風潮の中、生涯学習社会において大学図書館開放への期待は益々大きく、それに応えられる体制作りが必要である。文化政策・デザイン系大学にふさわしい、更なる蔵書の質の拡充を図る必要がある。

図書館の学外登録者については、学生数 1,513 人に対し学外登録者数 688 人と利用者の 3 割ほどを占め、毎年延 5 千人以上の入館者があり、2,700 冊近くを貸出す、全国的に見ても地域に非常によく利用されている大学図書館といえる。

本学図書館が「地域に開かれた大学」の理念を具現する施設としてよく利用されているだけに、その期待を裏切

らない図書館サービスも心掛けていかなければならない。